

平成30年度 大阪ミニバスケットボール連盟講習会



# 体罰の根絶に向けて

平成30年5月17日(木)

(一財)大阪府バスケットボール協会  
大阪ミニバスケットボール連盟

松元 利男

平成30年度 大阪ミニバスケットボール連盟講習会



# ミニバスケットボールからの 暴言・暴力の根絶に向けて

平成30年5月17日(木)

(一財)大阪府バスケットボール協会  
大阪ミニバスケットボール連盟

松元 利男

# 1. はじめに

(1) 自己紹介

(2) なぜ、講習会を行うのか？

## あなたの考えや行動をチェックしてみましょう

次の20項目を読んで、あなたの考えや行動に「あてはまる」か「あてはまらないか」を判断してみてください。

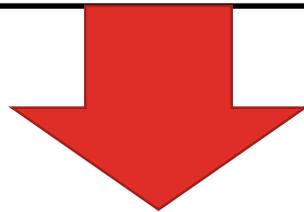
		あてはまる	あてはまらない
1	スポーツがうまければ指導者として十分だと思う		
2	自分のスポーツ指導に絶対的な自信を持っている		
3	スポーツの指導のために何かを勉強するなんて面倒くさい		
4	プレーヤーは自分の指示に従っていればよいと思う		
5	指導者に対してプレーヤーが異議申し立てをするのはおかしいと思う		
6	気に入ったプレーヤーをつい最良(ひいき)してしまうのは人情だと思う		
7	自分の指導しているスポーツの場では暴力やハラスメント、いじめの問題は起こってないから、今後も大丈夫だと思う		
8	知り合いの指導者がスポーツの指導に伴って暴力行為を行っていることを知っているが、その人の指導法だと思う		
9	指導しているプレーヤー間でいじめが起こっても、関わらないようにしている		
10	場合によっては暴力行為を伴ったスポーツ指導も必要だと思う		

11	ケガをさせなければ殴ってもよいと思う		
12	プレーヤーとの間に信頼関係があれば、暴力は許されると思う		
13	スポーツ指導で暴力行為を禁止したら、プレーヤーやチームが弱くなってしまうと思う		
14	スポーツの指導には、女性よりも男性の方が適していると思う		
15	スポーツ組織の役員に女性が就くことには違和感がある		
16	カラオケなどでプレーヤーが指導者とデュエットをするのは当然だと思う		
17	あいさつをする時に異性のプレーヤーの身体にふれることがよくある		
18	スポーツを指導する時に権利や人権のことなどほとんど考えない		
19	障がい者のスポーツ指導は手間がかかるので面倒だ		
20	同性愛者がスポーツをすることには違和感がある		

以上の20項目のなかであなたの考えや行動に「あてはまる」ものがあれば、あなたのその考えや行動について一度振り返ってみる必要があります。

# 二つに分かれる指導者のタイプ

1. 指導力不足の指導者
2. 指導力が高く、これまで多くの実績のある指導者



共通点がある

# 2 「指導死」を考える

【第3期野田西高可】

2017.12.22毎日朝刊 毎 日

## 桜宮高バスケット部自殺5年

# 体罰根絶 息子の

大阪市立桜宮高校バスケットボール部主将の男子生徒(当時17歳)が顧問―懲戒免職―から受けた体罰を苦に自殺した事件から23日で5年。体罰根絶の取り組みは各地で進むが、まだ道半ばだ。命日を前に取材に応じた父親(48)は「体罰防止が現場の意識まで届いていないのでは。息子が命を絶ってまで訴えたかったことを忘れないでほしい」と語る。

生徒は元顧問から体罰を受けた翌日の2012年12月23日、自宅で命を絶った。元顧問は日常的な体罰を認め、傷害罪などで懲役1年、執行猶予3年の有罪が確定した。

生徒は同年秋季に新チームの主将を任された。やる気がみなぎる表情をしていたが、体罰が激しくなり追い詰められていった。母親(49)は、生徒が自宅で裁縫箱を出して手袋を繕っていた姿を覚えていた。事件後、手が冷えやすいマネージャーのためだったと知った。

【榎田佳代、写真も】



20歳になるはずだった誕生日が過ぎた頃からピールを供えるようになった。大阪市に損害賠償を求めた訴訟が昨年確定したことを区切りに、「一緒にいられるように」と喉仏の骨だけ自宅に残し、遺骨は寺に納めた。

市は11月、賠償金と遅延損害金を含む8723万円の半額の負担を元顧問に求めて大阪地裁に提訴した。母親は「元顧問は

仏壇のそばには男子生徒が使っていたバスケットボールが置かれていた  
―関東地方の遺族宅で

## 両親「元顧問の反省 見届けたい」

息子の死を悼む 風ら性自た護花は... いなな阪で... ざたいき

# 2 「指導死」を考える

2017.11.25(土)毎日朝刊

## 「指導死」を考える

今年3月14日、福井県福井町の町立中2年の男子生徒(当時14歳)が、校舎から飛び降りて亡くなりました。町教委が設置した有識者の調査委員会は、担任と副担任からの厳しい指導と叱責を繰り返された結果、孤立感、絶望感を深めたのが原因と結論づけました。

この男子生徒のように、不適切な言動や暴力を用いた指導をきっかけに生徒が自殺することを「指導死」と呼びます。

これは「指導死」親の会 代表世話人の大島隆志さんが作った言葉です。東京都中野区の大員さんは2000年、中学2年だった次男の隆平くん(当時13歳)を自殺で亡くした親です。

指導による自殺というと、12年12月23日、大阪市立桜富高のバスケットボール部キャプテンだった2年の男子生徒(当時17歳)が顧問からの暴力を舌に自殺した事案のように、有形の暴力を伴うものが典型と恐れがちなようです。

しかし、私が報道や裁判資料などから調べた「指導死」が疑われる事案は、平成に入ってからだけでも37件(自殺未遂り件を含む)あり、うち有形の暴力が確認され



### 平成年間 少なくとも73件／9割が暴力なしで追い詰められ

ているのはわずか9件です。残りの9割弱は有形の暴力がない指導により児童生徒(大学生を含む)が死に追い詰められています。

福井の調査報告書を読んで一番開眼だと感じたのは、生徒が亡くなったのに、学校の職員たちが自分たちの生徒指導の問題に気づくことができなかったことです。

原因を探る職員会議で、担任や副担任の厳しい叱責を耳聞かしていた教職員の誰がからも、問題の指摘はなかったといえます。校長と教頭は遺族の家庭を訪問した際、遺書らしきノートをかばんの上でたたくようにして渡し、まるで自殺の原因が家庭にあるかのような態度をとったといえます。

なお、家族への不満をつづったノートの内容について調査委員は「本生徒が家族に対し、担任、副担任の指導叱責に対する不満を再三訴えたにもかかわらず、事態が改善されなかったことへの無力感を表出させたもの」と解釈されています。

結局、副担任は9月26日に報告書が出るまで同じような叱責を繰り返し、別の女子生徒が断続的に学校を休むようになっているました。もし調査検証をしたのが、学校や教育委員会の関係者であったなら、全く別の結論が導き出されていたかもしれません。

(08年4月3日、北海道釧路市の町立小5年の今野彩花さん(当時11歳)が担任教師の行き過ぎた指導を舌に自殺しています。

彩花さんが5年の時の女性担任は、夏休みの図形の宿題を角度が

### 行き過ぎた叱責 司法も許容／問われる大人社会の価値観

いり... いそ... る日... う判... 因た... 論の... 因に... 自... ぎ... て... や... の... 裁... り... 問...

## 2 「指導死」を考える

- 平成元年から「指導死」が疑われる自殺  
→73件(9件の自殺未遂を含む)
  - このうち有形の暴力が確認されている件数  
→ 9件
- 9割弱が暴力がない指導により死に追い詰められている。
- 2017年3月14日 福井県池田町2年男子生徒への担任・副担任からの厳しい指導と叱責による自死
- 2008年4月3日 北海道遠軽町小6年女児への担任教師の行き過ぎた指導による自死

## •「無意識の力、空気論」

人や組織を育てるのは「無意識の力」。「空気論」とは、それぞれの家庭、学校、教室には特有の空気が流れている。空気とは無意識のこと。学歴ぐらいいしか自慢の種がない人は、無意識の土壌がやせ細っており、その周囲から人が育っていかない。「無意識の力」を活用していない知識偏重の教育は、空疎な教育と言わざるを得ない。(月刊日本教育10月号)

## •「ことばの温度計」

人の口から発せられることばは、それが持つ辞書的な意味だけではなく、一定の温度感をもって相手に伝わっている。指導者が話すことばには温度があり、子どもが話すことばにも温度がある。子どもが進んで学びたくなるのは、そこにいる皆が「ことばの温度計」を共有している空間(教室)である。(神戸女子短期大学学長 長瀬 莊一 氏)

# 3 暴言・暴力に対する取組み

## (1) 日本体育協会

H25.4.25

### 「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」

日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障害者スポーツ協会  
全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟

#### 【はじめに】

殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的制裁、言葉や態度による人格の否定、脅迫、威圧、いじめや嫌がらせ、さらにセクシャルハラスメントなど、これらの暴力行為は、スポーツの価値を否定し、私たちのスポーツそのものを危機にさらす。

#### 1. 指導者

- 指導者は、暴力行為が人権の侵害であり、全ての人々の基本的権利であるスポーツを行う機会自体を奪うことを自覚する。
- 指導者は、暴力行為による強制と服従では、優れた競技者や強いチームの育成が図れないことを認識し、暴力行為が指導における必要悪という誤った考えを捨て去る。 (抜 粋)

## (1) 日本体育協会

H25.4.25

「スポーツ少年団活動を支える皆様へ」

日本体育協会スポーツ少年団

指導者は、子どもの成長やスキルアップのペースが遅いとき、プレイを失敗したときもどかしい想いを募らせることがあるのではないかと思います。

しかし、失敗して成長すること、失敗は成長の種であることを認識することが重要です。そこで必要なのは、暴力ではなく、団員を認め、彼らの話を聴き、なぜ失敗したのか共に考えることです。このことに留意しないと、熱い想いが罵声や殴打などの誤った言動に及んでしまいます。

(抜 粋)

## (1) 日本体育協会

### 「ガイドラインに基づく基本的な整備事項等」

(1) 倫理に関する規定の整備

(2) 倫理委員会の設置

(3) 不祥事予防のための意識啓発活動等の実施

・ 相談・苦情窓口の設置のための方法

○ H28.11.9 「日本体育協会倫理規定」 施行

○ H28.11.12 「日本体育協会相談窓口設置規定」 施行

## (2) 日本サッカー協会

- プレーヤーファースト

「プレーヤーにとって何が一番良いのか」を考える

- リスペクト

関わるすべての人、ものを互いに大切に思うこと

- めざせ！ベストサポーター

2013.5.16

### 「サッカー指導現場における暴力根絶の宣言」

失敗を恐れない、たくましい選手を育てるためには、時として厳しい指導も必要です。それ自体を否定するものではありませんが、その中に暴力的な指導は含まれてはならないものです。

「暴力等根絶相談窓口」（報告用紙の書式あり）

### (3) 日本バレーボール協会

2013年1月23日

会長メッセージ ～暴力根絶に向けて～

- 同校では2011年秋にバレーボール部顧問が体罰を与え、3か月の停職処分を受けておりますが、復帰後、再び体罰を行っていたことも判明しました。断じて許されることではありません。
- 日本バレーボール協会及び各加盟団体は『指導における倫理ガイドライン』を定め、体罰等の暴力根絶に努めておりますが、こうした事例を見ましても、残念ながら指導現場での暴力一掃は完全には達成できていないと思われまます。

(抜 粋)

### (3) 日本バレーボール協会

2012.3.22制定

指導における倫理ガイドライン ～暴力とセクハラの根絶に向けて～

1. このガイドラインにおける暴力行為とは、肉体的暴力により相手を傷つけることのほか、侮辱などの言動により相手を精神的に傷つけることをいう。

②暴力行為には肉体的な暴力だけでなく、暴言・脅迫・威圧・侮辱などにより相手を精神的に傷つけることも含まれる。相手の人格を否定するような言動、相手の存在を無視するような態度は精神的な暴力である。

コンプライアンスホットライン制度運用規定

ホームページに

体罰・暴力の相談窓口掲載(03-3502-〇〇〇〇)

法律事務所に直接つながるシステム

#### (4) 日本バスケットボール協会

2012. 5.15発行

「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」について

**公益財団法人日本バスケットボール協会 (JBA) では、公益財団法人日本体育協会および公益財団法人日本オリンピック委員会の加盟団体として、本宣言を遵守し、暴力行為を根絶いたします。**

# 指導者処分ガイドライン 2016.2.10

考慮すべき要素	違反の程度・結果	処分内容
・暴力・体罰行為 ・故意か過失か、確認	被害者障害なし	1. 懲罰の種類 懲罰の種類は以下の8項目とし、いずれかを科すものとする。 (1) 戒告 (2) 譴責 (3) 罰金 (4) 出場資格の停止 (5) 資格の降格・剥奪 (6) 公的業務の停止・禁止・解任 (7) バスケットボール関連活動の停止・禁止 (8) 除名  2. 処分基準 ① <u>実害がない偶発的な違反行為である場合は、(1)～(3)の懲罰を科すことができる。</u> ② <u>実害はないが、偶発的とは言えないまたは継続的な違反行為である場合は、(1)～(5)の懲罰を科すことができる。</u> ③ <u>実害がある違反行為である場合は、(1)～(7)の懲罰を科すことができる。</u>
	被害者が全治1か月未満	
	被害者が全治1か月以上	
・心身に有害な言動 ・故意か過失か、確認	活動環境に影響なし	
	被害者が強い嫌悪感を覚える	
	周囲の活動に支障がある	
	暴言繰返し死亡・刑事処分	
・わいせつ行為 ・心身に有害な影響を及ぼす	苦痛だが活動環境に支障はなし	
	被害者、周囲に支障	
	重大な障害・刑事罰	
・性的言動	被害者苦痛。周囲未悪化	
	被害者、周囲に支障	
	重大な障害・刑事罰	
・不適切な指導 ・しごき・おいこみ	活動環境に影響なし	
	被害者が強い嫌悪感を覚える	
	周囲の活動に支障がある	

# 4 スポーツ指導者の心得

日本スポーツ協会 2018年(第7版)

「倫理ガイドラインから」

1. プレイヤーが主役です
2. 指導者の持つ影響力を自覚しましょう
3. 反倫理的言動に適切に対処しよう

# 5 倫理的問題が起こらないために

## 1 倫理的問題が生じやすい構造的要因

→ どのようなものが考えられるか？

### ○ スポーツ集団内の要因

- 指導者とプレイヤー間の権力関係
- プレイヤー間の厳格な上下関係
- 勝利至上主義
- 集団主義 など

### ○ スポーツ界全体の要因

- 男性中心的な風潮や制度
- 競技成績が進学や就職に役立つ
- スポーツの場が社会から閉鎖的になっている など

## 2 表面化しにくい倫理的問題への対応

→ 起こったらどうするの？

○ 表面化しにくい場合がある

○ 組織的に隠蔽されることがある

○ 被害者の立場に考慮しつつ、速やかに適切な対応をすることが不可欠

**大阪三二連に相談を！**

# 6 反倫理的言動とは

## 1 反倫理的言動の内容及び範囲

### ○ 反人道的言動

- ① 身体的・精神的暴力及び言葉の暴力
- ② 性暴力及びセクシャルハラスメント
- ③ 差別

### ○ その他の反社会的行為

- ① 不適切な指導
- ② ドーピング及び禁止薬物等の使用
- ③ 金銭的な事柄

## 2 反倫理的言動がもたらす影響

### ○ 対個人

- ① 身体的・精神面
- ② 行動面
- ③ 社会生活面

### ○ 対集団

- 不愉快な環境、権利の侵害や権利の濫用、モラル機能の低下

### ○ 対社会

- 社会的イメージや評判の悪化

**特に子どもたちを指導対象とする場合は、心身の発育発達や技能レベルなどを十分考慮した指導をするとともに、子どもたちの手本となるような言動を心がけることが求められます！**

# 7 保護者が「すべきこと」

「してはいけないこと」

## 保護者の心構え4か条

- 一. 「縁の下のカ持ち」であれ
- 一. 「転ばぬ先の杖」になりすぎない
- 一. 指導方法やチームの戦術・戦略には口を出さない
- 一. 保護者は子どもの牽引車ではない

(スポーツペアレンツジャパンから)

# 【Best Sports Parents 宣言】

1. スポーツに打ち込むすべての子どもの人権を尊重します
2. 子どもたちの健全な心身を守るために全力を尽くします。
3. チームのルールを守ります。  
(子どもの見本となるように)
4. 常に子どもを支援励まします。
5. 子どもたちの選択を尊重します。
6. わが子だけのことを考えず、チーム全体の和を大切にします。

# 【Best Sports Parents 宣言】

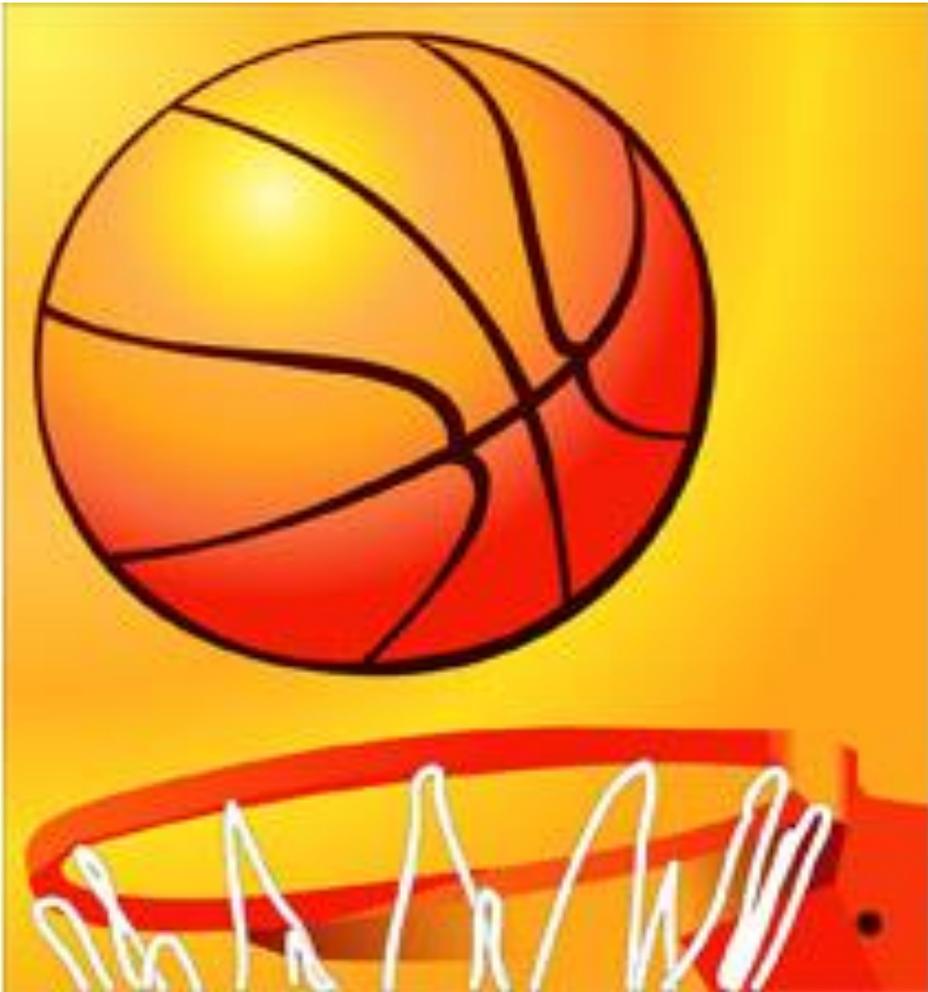
7. フェアプレー精神を尊重します。
8. 子どもと過ごすスポーツ以外の時間も大切にします。
9. 子どもたちが安全にプレーできるように、チームやコーチのサポートをします。
10. チームメイトの子どもも、わが子同様、愛情をもって接します。
11. 子どもたちのプレーを批判したり、否定したりしません。
12. 試合に勝っても負けても、子どもたちを笑顔で迎えます。

# 8. 14の危険信号

1. 時間に遅れだす
2. 約束を自分の方から破りだす
3. 挨拶が雑になりだす
4. 他人の批判や会社の批判をしだす
5. すぐに怒り出す（寛容さがなくなる）
6. 他人の話を上調子で聞き出す
7. 仕事に自信が出てきて、勉強しなくなる

8. 物事の対応が緩慢になる
9. 理論派になりだす（屁理屈を言う）
10. 打算的になりだす（損得勘定が染みつく）
11. 自分が偉く思えて他人がバカに見えてくる
12. 目下の人に対して、ぞんざいになる
13. 言い訳が多くなる
14. 「ありがとうございます」という言葉が少なくなる

＜謙虚さのなくなる兆候＞ニューモラルH29年11月号



指導者も

子どもと一緒に

楽しみましょう！

ご清聴

ありがとう

ございました！